



10月9日

新しくなったホールに美しい音色

長島町の恵那文化センターで、大ホールの改修工事完了を記念したクラシック鑑賞会があり、約600人が弦楽器の美しい音色を楽しみました。

コンサートはクラシックの名曲が弦楽アンサンブルで美しく奏でられスタート。曲の合間には楽しいトークがあり、時間を忘れる楽しさとなりました。アンコールでは、『青い山脈』や連続ドラマ小説『半分、青い。』の主題歌『アイデア』が演奏され、拍手が鳴り止まない中、終演を迎えました。

大ホールは約半年間の改修工事を完了。天井と壁の耐震化、客席クリーニングなどを行い、より安全で快適になりました。



10月5日

古式ゆかしく城下町を行列が行く

岩村城を築いた加藤景廉を祭る八幡神社と、その子景朝を祭る武並神社。いわむら秋まつりで、景朝のご神体を乗せたみこしが二つの神社を往復する「神輿渡御行列」が行われました。総勢300人の行列は、華やかなみこしを中心に、獅子頭や花馬、打ばやし、雅楽を引き連れ、岩村町の本通りを進みました。行列は時代絵巻に誘うかのように美しく、観衆を魅了していました。

雅楽の奏者として参列した岩邑中学校3年生の山田歩和さんは、「沿道の皆さんに喜んでもらえてやりがいを感じた。祭りは引き継がれてきた私たちの誇り。ずっと続けていきたい」と笑顔で話しました。



9月25日

83歳の陸上競技者宮地さんに県表彰

山岡町の宮地祥敬さんが、第12回県スポーツグランプリ表彰を受け、市長に喜びを報告しました。

これは、県が生きがいを持って楽しくスポーツをしている80歳以上の高齢者を表彰するもので、今回6人が表彰されました。

宮地さんは、今年の県マスターズ陸上選手権大会で60m走、100m走、走り幅跳びで1位になるなど、若い頃からの実力は衰えを知りません。「素晴らしいものを頂いた。毎日石段を駆け上がるなど楽しくトレーニングしている。これからも市の健康都市宣言の趣旨に沿って頑張りたい」と話しました。



9月19日

女性消防隊が全国大会で活動発表

青森県で開催された第25回全国女性消防団員活性化青森大会で、市消防団女性消防隊が活動発表を行いました。

タイトルは「子どもは自分の命を守れない！わが子を守る備えをしましょう。子連れ防災教室」。乳幼児を持つ母親を対象に、市内全地区で開催している防災教室を紹介しました。

発表では、母親たちが普段使っている「ママバッグ」が避難時の袋になるよう、おむつやミルクなどは使った分だけ補充していくことを勧めている、などと紹介。全国的女性消防団員の前で、活動をアピールしました。



10月10日

農高生とプロのコラボ料理を発表

恵那農業高等学校食品科学科3年生6人が、同校で取り組んでいる「花咲か里山プロジェクト」で栽培したエゴマを使ったレシピを考案。プロの料理人の手で商品化され、この日、料理のお披露目会がありました。

生徒らは、考案したレシピのポイントや実際の料理として仕上げるまでの苦労などを一人ずつ発表。試食した上矢作町の安藤由美子さんは「エゴマ独特のプチプチとした食感が楽しい」と話していました。

これらの料理は、10月から11月までプロの料理人の6店舗で提供されます。詳しくはウェブサイトを確認ください。



10月8日

手作りの紙芝居で明智光秀を語る

明智読み聞かせの会による「明智光秀紙芝居」のお披露目会が明智小学校で行われ全校児童や地域住民が鑑賞しました。

明智町内には明智光秀ゆかりの多くの史跡が残っていることから、同会が5月から制作し、9月に完成したばかり。ストーリーは自分たちで考え、絵は山岡町にある林昌寺の住職宮地直樹さんが描きました。

会代表の平林多津子さんは「子どもたちが真剣に聞いてくれ、明智光秀を通じ、地元への誇りを持っていることが伝わってきました」と手応えを感じていました。今後は、福祉施設やイベントで披露し、希望があれば出張紙芝居にも応じる予定です。



9月29日

山岡ならではの寒天と登り窯の祭り

良質な陶土の産地である山岡町では、一年に一度、三連式の登り窯で3日間窯たきが行われ、陶芸教室生徒の作品などが焼成されます。

たき上がりのこの日は、山岡町のもう一つの産業である細寒天と一緒にPRする「寒天・登り窯ふれあい祭り」が開催され、約1,200人の来場者でにぎわいました。

流しところてんを楽しんだ長島町の瀬瀬愛佳ちゃん(7歳)は「流れてくるのをつかむのがおもしろかった」。ろくろ体験をした岩村町の保母陽終くん(4歳)は「難しかった」と言いつつ、世界に一つだけの器ができるのを楽しみにしていました。



9月23日

採れたてゆでたて、おいしかった

中野方町で「えだまめ収穫体験会」があり、親子連れなど約40人が自分たちで育てた枝豆の収穫を行いました。これは、町ぐるみで子どもたちの食から農業を考えようと、中野方農と食を育む会が主催し町内の各団体が協力して行ったもの。6月に種まきを、8月に草取りを行いました。

当日は、雨のため、畑での作業は中止。コミュニティセンター地下で枝豆のさやを切る作業のみを行いました。枝豆の他に、中野方壮健クラブ連合会の協力でサツマイモやクリも提供されました。参加者は、採れたてゆでたての旬の食材をおいしそうに頬張っていました。